

新編中華書局

元深小學校長 帶賀 信義

急激に変化進展していく社会の中で、お互いが楽しく幸せに、ゆとりと生きがいをもつてより充実した人生は送れることを願っています。そのためには、社会の変化に対応できるような自分自身を育てていくことが大切であると思います。

このたびは、女性に求められることを中心と考えてみたいと思っています。

先ず、女性として、楽しく豊かに生かされるシステムをつくることを考えなければなりません。

今日、男女共同参画社会の中で、本当に女性が、共同参画で生きるような地域社会にならんでしようか。

まだまだ、これから課題として考えていいかなければならないと思っています。

自分のこれまでの生活と、これから的生活を考えてみて欲しいと思います。



清の歴史これ語(1)

「不加六」、「少稱」

口述歷史

宝永六年（一七〇九）の不加村差出し帳（藩が各村の村勢を知るために、庄屋に提出させたもの）には、「不加」の字を当てる。 くだつて、文政二年（一八一九）の国郡志御用二付下彈書出帳には、次の様に記している。

微調君木頃之庄 深村
先年者不加村と書申候由
いつ之頃もか深村与書來申候
當時ニ而も三原表者住古之通
不加村と書來申候

これを現代語訳してみると、「以前は不加村と書いていましたが、いつの頃からか深村と書くようになつたと申しております。今も、三原表（役所）へは昔の通り不加村と書いて來たと申しております」となる。

私たちの生活の原点である家庭、家族、夫婦とはどうあればよいのでしょうか。家族は、お互いに心の支えであり、安らぎの源、その上に、子育てと家事は共同で進めいくことが大事だと思っています。そして、家族の一員としての自覚をもち、心の居場所でもあると思います。

現在、家庭における児童虐待の問題が社会問題になつてきています。私は、いろんな所へ話しに行つていまます、児童虐待が身近にあることを聞き、重い気持ちになつています。

きるような地域社会になつてい
るでしょうか。
まだまだ、これから課題と
して考えていかなければならな
いと思つています。
自分のこれまでの生活と、こ
れからの生活を考えてみて欲し
いと思います。

なぜ、このような虐待が多くなつてゐるのでしょうか。親としての責任は重大だと思います。

子どもが「なつかない」「よく泣いてうるさい」とか、また、「食事を十分に与えない」体の調子が悪くても「手当をしない」「薬をのませない」など、どうして、わが子をそこまで虐待しなければならないのでしょうか。親の勝手としか言いようのない状況です。

子どもにとつては、尊い生命をいただいたのだから、生きなければなりません。子どもの生きる権利を奪つてしまつているのです。

これは、許すことのできない人権侵害なのです。

女性として、母として生み育

日本でも以前に出た本で、馬渕通夫、恭子著「自然治癒力復活療法」という本があります。病気に良い薬は保険では認められず、これでは病気は治せないと、社会保険医を辞退され、「みどり会」をつくられた。

後漢書

秋の寒波が暮れやらんことを
憂ふ日なりて寒さ和らぐ

己が命を構へるや

我が祖国愛する心赤き人ら

言葉優しき女性なれど
ふどする素振り今時の娘なり

中組 竹内 博滿

短歌·俳句·詩

甲子年

自由と不自由は反対のことの
ようだが隣り合わせのものだ。
先日、テレビでフリーランスで
働く人が四百十七万人いる、新
卒も三十代の人も多くいるとい
つていた。時給千円、生活の保
障はなく明日の保障もなく不安
と不自由な仕事だ。事業主には
自由になる労働者がフリーラ
ンスにはつらい。



見事な演奏で有終の美

三月二十一日、文化会館大ホールで、如水館中・高等学校吹奏楽部による第七回定期演奏会が開催されました。日常のたゆまない精進が実を結び、心の奥深く響く感動と迫力ある生の演奏や幻想的なプログラックライト音楽劇に満場を魅了しました。盛大で惜しみない拍手が送られていきました。

なお、パーカッション（打楽器演奏）のパートリーダーとして活躍した高校三年の成末香里さん（深小卒）にとつては、感激涙にむせぶ最後の晴れの舞台となりました。（編集室）

▲

▲

先月（一一八号）に次

先月（一一八号）発行の「ふかまちのまど」に次とおり一ふを部誤りがありましたのでお詫びをして、訂正します。

※中之町河野さんの隨筆「昭和の生まれ」の文章の中程に、欠落がありました。
（欠落文）

その昔、乾物ものをてんびん棒いで担いで売りに来る魚屋さんが、
（欠落文）

その昔、昔、乾物をてんびん棒いで担いで売りに来る魚屋さんがある。
（欠落文）

魚にでその昔、（正しい文）

魚をタオいりで、（正しい文）

入るがてで売りで、（正しい文）

いかのぶりで、（正しい文）

ぶつりに、（正しい文）

桶を乗せ、（正しい文）

頭に上棒来る。（正しい文）

※深町介護予防教室の記事で
○講師(誤)特別擁護老人ホーム
○講師(正)特別養護老人ホーム